

寄付のお願い

子どもの貧困問題や様々な社会課題解決のために寄付を募集しております。

皆さまからの温かいご支援をよろしくお願いいたします

ご都合の良いときに、任意の金額をご寄付いただけます。

銀行口座

- 金融機関 PayPay銀行 ビジネス営業部
- 口座番号 普通6049355
- 口座名義 トクヒミライズツ

WEBからご支援いただけます。

み・らいず2 寄付



大阪マラソンの寄付先団体にも選定されています

子どもの貧困問題や様々な社会課題を啓発し、活動に必要な資金を募るために、大阪マラソンの寄付先団体に応募し、2018年から5年連続で選定されています。

大阪マラソンで集まった寄付金を活用し

- ・子ども食堂や子どもの居場所の運営
- ・子どもの貧困問題の啓発活動
- ・支援者の育成

などを行っております。



チャリティ実績

チャリティーランナー：160人(2018年～)

寄附者数：168人(2021年～)



NPO法人み・らいず2

〒559-0015 大阪市住之江区南加賀屋4-4-19

TEL: 050-5840-3113(法人本部)

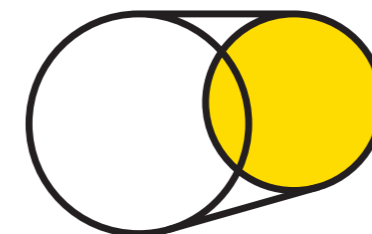
WEB: <https://me-rise.com>

み・らいず2は、「だれもが自分らしく地域で暮らすことができる社会」を目指して障がいのある人、発達障がいや不登校の子ども、高校生、ニート・引きこもりの若者など、支援が必要な方々に対する事業を行なっている団体です。大学生がボランティアとして約150名活動しています。

未来の
声なき声に
耳をかたむけ続ける

ANNUAL REPORT 2022

NPO法人み・らいず2 2022年度活動報告書



み・らいず
ME-RISE

はじめに / mission & vision

—— 第1号アニュアルレポート発行にあたり ——

障害のある人たちが地域で自分らしい生活をおくるための支援を届けようと、法人を立ち上げて20年。社会の様相や福祉制度、私たちの事業の規模と内容は大きく変わりました。2005年に施行された発達障害者支援法や2013年の総合支援法のもと、国や自治体による支援が広がり、それらの対象者はサポートを以前よりも受けやすくなっています。障害のある方の余暇支援と学習支援から始まったみ・らいず2は、暮らしを支えるヘルパー派遣や、子ども自身の学びや育ちを支えるための放課後等デイサービス、力をつけた若者が社会で役割を果たすための就労移行支援事業など、出会った人たちのライフステージの変化や社会のニーズに応えるために、必要な支援をつくってきました。

法人の前身であるサークル時代から背中を押してくださった方々、この20年の間に様々なかたちで叱咤激励やご指南くださった方々、そして一緒に活動を支えつづけてくれる学生やスタッフに、心から感謝しています。改めてこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

2022年度も、子どもや若者、保護者の声をもとに、新たな取り組みをいくつか開始しました。「就職予備校み・らいずワークス」を2年コースから3年コースに変更し、「み・らいずスクール」で練習した「ソーシャルスキル」を実際に友達や家族との間で実践するためのクラスを増やし、就職に関する支援制度の対象とならない大学生の就職活動をサポートする「キャリアサポートステーション事業」などです。

制度や公的な委託事業等の整備が進み、対象となって様々な支援を受けられる人は増えました。しかし、どの制度にも必ず「はざま」(グレーゾーン)があり、声を出せない、困っているけれど支援が届いていない人がいます。経済的な問題や、社会参加の機会がない、文化的な体験がないなどにより、社会の中で役割をもてず、あきらめてしまっている子どもや若者がいます。気づいた人が、社会を変えるためにできる行動としては、現状を知ること、子どもや若者のための活動に対する寄付や社会貢献があります。そのためには、自分たちだけが課題を認識して活動するだけでなく、多くの人にわかりやすく活動をお伝えすることが必要だという考えに至りました。というわけで、22年目にして初のアニュアルレポートを発行いたします。みなさま、ぜひご一読いただき、今後も力強いご支援とご寄付をお待ちしております。

代表理事 河内 崇典

未来の 声なき声に 耳をかたむけ続ける

私たちがしてきたこと、この先も挑み続けることは、時代の先を行く福祉サービスの創造でも単なる事業の運営でもありません。

出会う人々すべてと全力で向き合い、話を聞き、言葉にならない思いを想像しながら相手の幸せを一心に願う、その積み重ね。たとえ、仕組みや制度の壁があったとしてもそれでも何かできるはず、もっと他にできることはないか、と立ち止まらずに考え続けるのが基本です。

その時代、時代の地域の課題や一人ひとりが抱える困りごとを見つめて、必要な支援を届け、なければ、つくり続ける。

み・らいず2が目指すのは、「だれもが、自分らしく地域で暮らせる社会」がどんな人にとっても当たり前の未来です。

日々大切な、6つの支援

私たちの考える、人生を豊かにする6つの支援

み・らいず2では、人と人が地域社会で一緒に暮らしていくために必要な支援を、「遊ぶ」「暮らす」「学ぶ」「働く」「描く」という6つの視点からとらえて活動を行っています。

未就学期にはそれぞれの子どもの育ちを、保護者と一緒に受け止めながら、豊かな育ちの基礎を支えます。

児童期には「10歳」をポイントに置きながら、子どもの自我の芽生えや、「自分でやりたい、できる、できた！」等の意欲と行動を学びとる力をつけ、人と遊ぶことや自分の好きな遊びを楽しむ力を支えます。

思春期には「自分」を家族と切り離して考え始めたり、様々な葛藤と向き合い、少しずつ将来のことや自分の「暮らし」について考えはじめることを支えます。

高校卒業後は、働くことで社会を構成する1人の若者となり、誰かを支える立場になっていくための学びと経験を支え、働きながら自分らしく暮らす姿と一緒に描きつつ支えます。

2022年度も、それぞれの事業でみんながそれぞれの一步をふみだすことができました。1年1年、今しかない時間を大切にしていきたいと思えます。

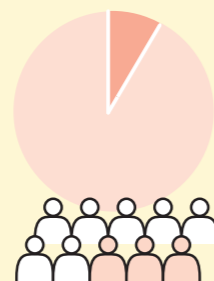


2022年度の活動実績

利用者 / サービス提供

4,651名の利用者に
の35,422件のサービスを提供

生活困窮世帯への支援



全利用者のうち
29.3%が生活困窮世帯

※生活困窮世帯:生活保護受給世帯と市町村民税非課税世帯の合計
※生活困窮世帯かどうか不明の場合は、母数から除く

不登校児への支援

638名

活動に関わった大学生

64校 188名の学生が 2,205日間活動



み・らいず2が取り組む「子どもの貧困」

地域社会には様々な状況に置かれている子どもたちがいますが、大人になるとなかなか自分と違う状況の人に会うことがない、あるいは会ったことがないため、なかなか子どもたちの困難な状況を知り得ない、想像も難しいという方も多くいます。子どもたちが置かれている状況には以下のようなものがあり、子どもの育ちや、将来の自己選択や自己決定、社会参加に影響を与えていると考えています。

- 経済的な問題により、子育てのサポートを受けられない...
- 子育て環境を整えられない...
- 家族や学校含むコミュニティ内での暴言暴力など心理的、身体的な抑圧がある...
- 個々の特徴や発達の特性などで子育て、親子関係、友人など対人関係に困難がある...



必要なサポートを「明日にでも」

どの子どもにも必要なサポートを「明日にでも」届けはじめられるには、既存の制度だけでは不可能で、助成金や寄付などを継続的に確保する必要があります。

言葉にできない困難を、共に改善することをめざして

社会の中で多くの方が、子どもたちが日々感じているけど言葉にできない困難を、自分事ととらえて共に改善していくことができるよう、支援と発信を続けてまいります。皆様どうぞ協力の程お願い申し上げます。

居場所づくり ~安心できる人と場所を一人ひとりに~



み・らいずパーク&プレイス

小学生から高校生まで、多様な子どもたちが通う居場所です。子ども自身の意思や判断、葛藤を重要視しながら、子ども同士の関係づくりや、保護者と一緒に子育てを支えます。



サテライト住之江

2004年から取り組んでいる事業です。今は主に中学生向けに、学校以外に通える場所として、個々に合わせた学習や遊び、集団活動などを個々に合わせて行っています。大阪市委託事業。



堺市 学習と居場所づくり支援事業

中高生が勉強やおしゃべり、絵、ゲームなど自分なりの過ごし方をしています。多様な体験活動も行っています。堺市委託事業。

相談支援 ~自分について考え、未来を描く~



み・らいず相談支援センター

障がい児者の個別の相談、福祉サービス利用を含めた個別支援計画の作成を行います。多様な事業に従事する職員が兼務で行うことで、法人全体で多面的な支援を行います。



堺地域若者サポートステーション

ひきこもりやニートといった状態にある若者や家族の総合相談窓口です。年間2,000件以上の個別面談、集団援助等とともに、地域若者サポートステーションを併設し、就職に向けたサポートも行っています。堺市委託事業。



尼崎市ユース相談支援事業

中学生から29歳までの不登校、ひきこもり等の状態にある人にむけて、アウトリーチによる相談支援、社会参加のための同行支援などを行っています。尼崎市委託事業。

2022年度の活動

「み・らいずパーク」がオープンし、福祉制度によらない居場所の利用もできるようになりました。どの事業でも、子どもたちが安心してすごせるようになり、自分の考えを聞かれたり、伝える・伝えられたりするという経験を重ねることができています。子どもの話だけでなく保護者の話もよく聞くことで、子どもの安心にもつながっています。

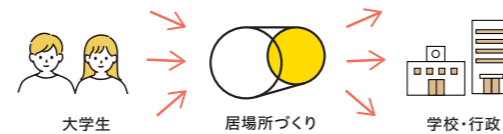
居場所事業の利用者

158名



これから

- 1 まだ支援が届いていない子どもたちに届くよう、学校や行政などに支援の内容をわかりやすく伝えていきます。
- 2 活動する大学生を増やし、スタッフの子ども理解力や遊び力を高め、子どもや保護者の声をもとに丁寧に居場所をつくります。



2022年度の活動

子どもや若者本人の相談、保護者の相談を受けながら、自分で知って考えて選択することへの支援や、働くこと等多様な不安と一緒に向き合ったり、福祉制度の活用等と一緒に考えてきました。

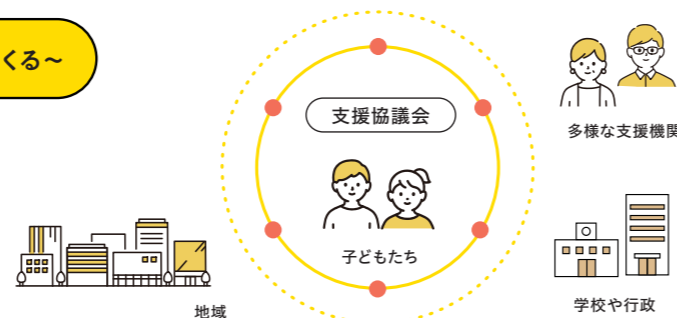
相談支援の利用者	障がい児相談 児童	児童	93名	成人	23名
子ども・若者総合相談センター			2,164名		
堺地域若者サポートステーション			1,557名		
尼崎市ユース相談支援事業			103名		

これから

- 1 相談員には様々な力が求められるため、職員のケアも重要です。今後は法人として多様な事象を受け止めた時にケアできる体制を整えていきます。
- 2 発達段階の理解や、他法の制度、地域の資源など、相談員の資質向上にも取り組みます。

地域との連携 ~お互いの力を合わせて必要な支援をつくる~

各事業、同業種のネットワークをつくり、地域全体での課題解決や必要な取組み創出を行っています。



堺市子ども・若者支援地域協議会

堺市の子ども・若者支援を行う機関でつくる協議会です。毎年、実務者会議で議論を重ね、代表者会議で市の施策としての検討などを行います。毎年、イオンモールで関係機関が集まり活動紹介や相談ができる「見本市」の開催なども行っています。

住之江区障害者地域自立支援協議会「子ども部会」

住之江区内で子どもの支援機関が集まり、お互いを知り合うこと、障がいの理解や要保護児童の支援等の理解を深める研修などを行っています。住之江区子育て応援イベントに、相談ブースで参画しています。



イオンモールでの見本市の様子

社会課題解決に向けたチャレンジ

beみ・らいず (放課後等デイサービス)

子どもたちが「外に出る力」をつけて選択肢を増やせるように、という思いで立ち上げました。ひとりで電車に乗る、ひとりで学校へ行く、ひとりで遊びに行けるようになることを目指して、「外に出る力」に特化したプログラムとその実践を行います。

利用者数 **39名** 利用回数 **のべ549回**



み・らいずワークス (自立訓練、就労移行支援、定着支援)

み・らいずワークスは、働くための準備を必要としている人や適職を見つけない人のための就職予備校です。

私たちは、仕事のできばえやスピードだけで働けるか働けないかを判断しません。ひとり一人に合う仕事や職場環境、人とのつきあい方やしんどい時の対処法を探りながら、社会で働くための準備に寄り添います。

また、自分の得意なことを活かして困っている仲間をサポートしたり、苦手なことには適切に助けを求めながら成長し、前に進める人になることを目指します。

2022年には就活がうまくいかない大学生向けのキャリアサポートを行う「キャリアステ」事業もスタートしました。

就職率 **89%** 定着率 **100%** 利用回数 **のべ6,539回**
※2021-2022年度実績 ※就職後6ヶ月後の在職者の割合



ラーンメイト

発達障害がいや不登校の子どもたちに、個別での学習支援を行います。発達障害がいや不登校の子どもたちの中には、学校や塾での集団学習のペースがつかめず、学習嫌いになっている子どもがいます。

そんな子どもたちに「わかっておもしろい」「わからなくて悔しい」「もっと知りたい」という気持ちをたくさん経験してほしいと思っています。一人ひとりの個性や興味に目を向け、「知りたい!」や「面白い!」という気持ちを引き出します。そして、「できる」と思えるところから、それぞれのペースで着実に学習していきます。

生徒数 **257名** 利用回数 **のべ8,571回**



福祉教育

一人一人の違いを学ぶワークショップや障がいのある当事者の方をゲストに招いた対話、福祉現場で活動する大学生との対話の授業等を実施しました。授業を受けた生徒からは「困っている人がいたら声をかけてみる」「障がいがあっても楽しく生きている人がいることを知った」などの声があり、福祉について理解し、日々の行動につながっていくきっかけとなりました。

授業実施校数 **25校** 授業を受けた生徒数 **2,509人**



子どもの変化・親の変化

うちの子にはまだ難しいかもしれない…。不安もありましたが、放課後等デイサービスbeみ・らいずの利用を開始。2、3か月たったころ、子どもが自分でやってみようとするが増えてきました。わが子の変化に驚き、親である私自身の意識も変わってきました。「何こともやってみないとできないようにならない。」「積み重ねたらできるかもしれない。」あの時、思い切って挑戦させたことが、子どもの将来の広がりにつながっている今は実感しています。

beみ・らいず利用者保護者



就職に向けての大切な準備ができた

働き始めて1年と少し経ちました。ワークスに通う中で、デスクワークより体をを使う仕事につきたいと思うようになり、農業に関わる仕事を選びました。大変な作業もありますが、野菜を育てることに楽しさ、暖かさを感じます。人と話すことに苦手意識が強かったですが、「しゃべり場」というプログラム等を通して少しずつ慣れていき、挨拶も自分からできるようになりました。金銭的には家族に頼ることが多かったですが、自立に近づいてきています。就職してからはアーティストのライブに行ったり、スポーツジムに通うようになりました。アーティストを初めて間近で見たときは、感動しました。

み・らいずワークス卒業生



大学生とともに

大学生とともに社会課題解決に取り組む

ガイドヘルパー講座

福祉の面白さを伝え、活動に関わる学生を増やすことを目的に、ガイドヘルパーの資格を取得できる講座の開催を行っています。50名がガイドヘルパーとして新たに活動を開始しました。

開講回数 **11回** 受講人数 **163人**



ソーシャルカレッジ

社会課題を知るための「ソーシャルボランティア」、社会課題に関わるための「ソーシャルバイト」、社会課題の解決を仕事にする「ソーシャルリクルート」を実施しました。

新規登録人数 **372名** イベント参加人数 **のべ700名**



ガイドヘルパーを通して経験したことは全てが財産

熊本地震をきっかけにボランティアに興味をもち、障がいのある方の外出を支援する資格をとり、ガイドヘルパーとして活動を始めました。言葉ではなく、しぐさや視線でのやり取りで、利用者とのように信頼関係を築いたら良いのか悩むこともありましたが、『あきらめないことが大事。』一緒に美味しいものを食べ、うれしいや心地いいなどの感情の共有を積み重ねるなかで、関係に変化が起こることがとても面白いです。楽しいや難しいなど、いろんな思いが湧き出るガイドヘルパーでの経験が、自分の将来につながっていくと考えて日々の活動に取り組んでいます。

奈良学園大学 保健医療学部 3年生



子どもの居場所と私の居場所

昨年の開所からME-RISE PARKに参加していますが、今年に入り、居場所の利用を開始する子どもたちが増えてきました。そのため、一人一人の子どもたちを見ながらも全体を見ていく難しさを痛感しています。最初は全てを自分一人で何とかしようと思っていましたが、スタッフと声を掛け合いながら行うことで、より子どもたちに向き合うことが出来るようになってきました。子どもたちに信頼してもらうためには、スタッフ同士の信頼関係が最も大事だと考えています。お互い感じたことを言い合い、認め合う。その中で、子どもたちにとって最も良い選択肢は何なのかを考える。このような時間は、子どもたちだけではなく私の居場所にもなっています。

近畿大学 総合社会学部 4年生

